

低未利用町有地を活用した市街地のUpdate 高浜地区市街地活性化基本計画 概要版

高浜地区活性化に向けた
まちづくりの考え方
詳しくはこちらをご覧ください。



令和4年4月策定
高浜町総合政策課

高浜地区の課題

- 暮らしの向上が必要（利便性や快適性）
 - ・商業機能の維持や防災面での改善、福祉の拠点づくりなどによる住環境の改善や質的向上
 - ・新たな移動手段の確保など、誰もが暮らしやすいと感じることができる環境づくり

- 問題のさらなる深刻化に備えることが必要
 - ・既に顕在化している人口減少、高齢化、高齢者の孤立化、空き家の増加、地域コミュニティの喪失といった問題が、さらに深刻化していく状況に対し、今から備えることが必要

- まちなかの「にぎわい」の創出が必要
 - ・商店街振興、並びに新たな生活様式を志向する住民の受入れ等を通したにぎわいづくりが必要
 - ・当該エリアで事業（商売等）を展開しようとするプレイヤーの受け皿づくり
 - ・年間を通じて楽しめる空間や環境づくり（日帰り観光から滞在型観光）
 - ・地区を代表する商品づくり（ブランド化）
 - ・地域に根付く歴史や文化の発信を通じた観光振興や郷土愛の醸成

- 新たな人を受け入れる環境づくりが必要
 - ・新規居住者や新たなプレーヤー（事業をはじめたい人など）を受け入れる空間や仕組み、土壌が必要
 - ・田舎暮らし、二地域居住等を志向する人、観光客や関係人口など様々な人を受け入れる準備が必要

- 様々なプレイヤーとの連携／役割分担を図っていくことが必要
 - ・プレイヤー同士が互いに協力、連携が図れるような場づくりや仕組みづくり等が必要

将来像

まちの資源を活かした公園のようなまち

高浜

基本方針

1. ひと・もの・ことが循環する 緑のコンパクトシティへ （都市機能集約系）

高齢者や子ども、子育て世代、若者など、誰にとっても居心地がよく、いきいきと利用・活躍できる施設や公園等を整備し、ひと・もの・ことが循環する“居心地のよい公共空間”に包まれた緑豊かな市街地形成を図ります。

2. つながりを感じ“利便性”と“快適性” のある歩きたい健康な市街地 （まちなか暮らし系）

域内交通の利便性を高め、車がなくても移動しやすい町を形成するとともに、市街地内のつながり（回遊性、滞在性）を向上させることにより、暮らしの利便性を高め、生活者が快適と感じる市街地の価値向上を図り、緑豊かで歩きたくなる健康な町を目指します。

3. “賑わい”と“楽しさ”あふれる海辺 （にぎわい・景観系）

高浜漁港、城山エリアの再生を中心に、商業・サービス機能や景観・町並み等の資源を活用し、海辺のライフスタイルや漁業の魅力と集客力を高めていくとともに、既存の商店街や交流施設と連携したイベント等により、出店者にとっても魅力ある町を目指す。また、城山公園、高浜七年祭等の自然や文化を感じられる事業と連携した取り組みによって、文化・観光・産業面で個性が輝ける市街地形成を図ります。

高浜地区の課題解決に向けた取り組みの方向性・リーディングプロジェクト

1）住民の快適で安全・安心な暮らしをサポートする

子育て・福祉

住民の移動手段の確保、居住空間の防災性の向上、福祉の拠点整備、高齢者の見守りや居場所づくり、子どもの健やかな成長を促す場所づくりや子育て支援などについて、地域と連携しながら共に進めていく。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》

- ・社会福祉施設（福祉の拠点）の整備
- ・高浜町立認定こども園新設
- ・（仮称）高浜公園の整備
- ・新たな移動手段の検討（グリーンスローモビリティ等）
- ・密集市街地の改善（防災道路の整備等）

■リーディングプロジェクト

- ① 福祉拠点の創出と公園づくりで、「歩きたい」を Update
- ② 回遊性を生む移動サービス（シェアリングエコノミー）で、「交通」を Update

2）定住人口・関係人口の増加に向けた取り組みを進める

暮らし・定住

町が有する豊かな自然環境を活かしつつ、新たなライフスタイル／居住ニーズに対応したスマートで質の高い住環境を整備するとともに、緩やかな地域との関わりをもちつつ、新たな地域の担い手として期待される関係人口の増加に向けた取り組みを進める。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》

- ・スマートタウンモデルの整備（旧若宮園）
- ・まちなか交流館の活用
- ・新たな観光スタイル、働き方、暮らし方の推進（ワーケーション等）

■リーディングプロジェクト

- ③ スマートな暮らし方。次世代技術で、「暮らし」を Update
⇒スマートタウンモデル整備

3）第 1 次産業従事者／事業者の活動の場（拠点）をつくる

地場産業育成

6 次産業施設の整備を契機に、漁業を主とした第 1 次産業の「業（なりわい）」としての可能性を高め、新規従事者の獲得も視野に入れた取り組みへとつなげていく。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》

- ・6次産業施設 UMIKARA の整備
- ・市場の移転

■リーディングプロジェクト

- ④ 循環とつながりをテーマに、「海」を Update
⇒はもと加工販売所 /UMIKARA/ 市場・漁協移転

4）新たな交流・イノベーションの創出を図る

観光振興

6 次産業施設・スマートタウンという新たな交流拠点が整備されることから、新旧点在する資源をつなぎ、まちの回遊性や多様な観光のあり方を検討し、新たな交流とイノベーションが生まれるよう支援していく。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》

- ・城山荘、城山公園等の再整備
- ・白浜グランピング
- ・中寄眺望広場
- ・若狭和田ビーチ / 脇坂公園再整備

■リーディングプロジェクト

- ⑤ スマートな働き方・暮らし方・生き方。
新たな交流で、「シーサイドライン」を Update

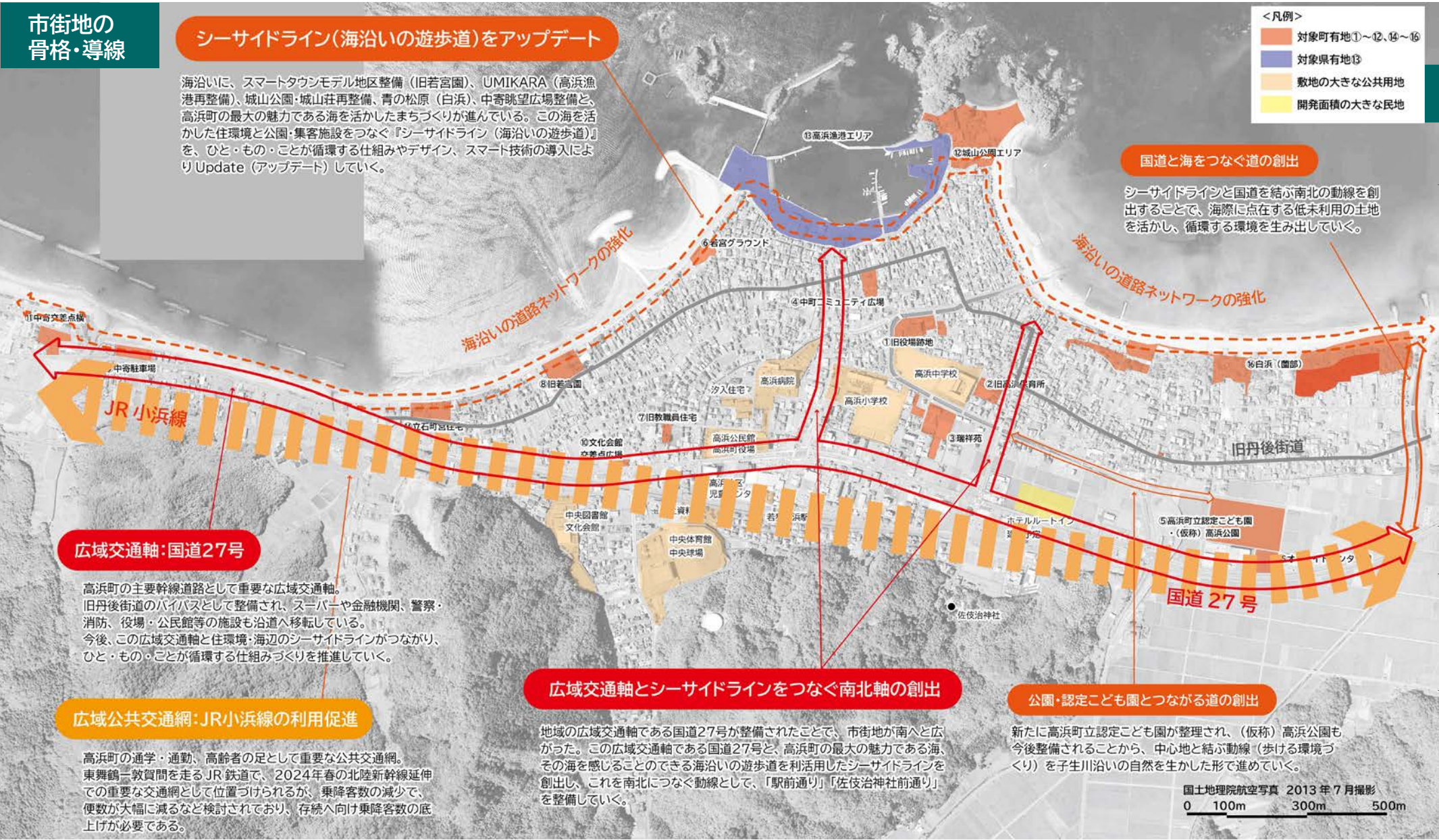
5）地区の将来像を共有し、多様な行動主体がつながる場をつくる

推進体制

高浜地区が抱える様々な問題・課題を踏まえ、地元住民や活動主体の関係性を高め、地区の将来像（どういう地区を目指すのか、そのためには何をしないといけないのか等）を共有するとともに、意見交換や協働のきっかけとなる緩やかな場（プラットフォーム）をつくる。

《事業や取り組みのイメージ（例示）》

- ・高浜地区のビジョンの共有、勉強会、ワークショップ（対話機会の創出）
- ・活動主体の意見交換、情報共有、連携のための場（デジタル技術の活用、空間や機会）づくり
- ・DX 化におけるクラウドファンディングなど参加型のまちづくり手法の活用

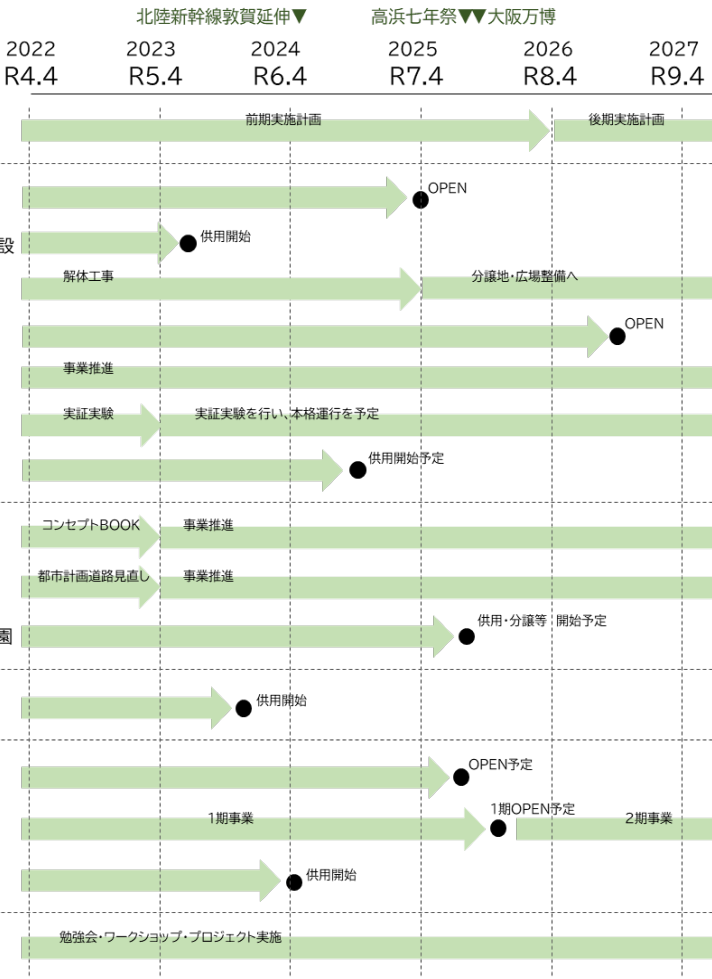


主なスケジュール

※前期実施計画掲載事業

高浜町総合計画

- 1-1) 地域福祉拠点の整備
1-2) 高浜中学校テニスコート新設
1-3) 旧役場跡地転活用
1-4) (仮称)高浜公園の整備
1-5) 密集市街地の改善事業
1-6) グリーンズローモビリティ
1-7) 給食センター再整備
2-1) シーサイドライン全体
2-2) シンボルロード(駅前通り)
2-3) スマートモデルタウン若宮園
3) 市場移転
4-1) 城山荘リノベーション
4-2) 白浜グランピング
4-3) 中寄眺望広場
5) ライフスタイルデザイン会議



※各プロジェクトの実施期間は、計画の熟度により前後する可能性がある。

Phase1 短期 およそ5年での整備を目指すもの

【基本的な考え方】

- 漁港ゾーンにおける6次産業施設・市場の整備、城山公園の再整備により、新たな賑わいの創出と周辺住民の生活利便性の向上が図られる
- 高浜町立認定こども園や地域福祉活動の拠点整備により、子育て層をはじめ多世代が利用できる暮らしの拠点の形成が図られる



Phase2 中期 およそ10年後の整備を目指すもの

【基本的な考え方】

- まちの骨格となる駅前通りが南北に整備され、安心安全な歩行空間が確保されると共に、人の流れが活性化
- 旧役場跡等は周辺住民の健康的な暮らしに資する機能の導入、旧若宮園にはIoT等の技術導入によるスマート住宅の整備を検討
- 白浜グランピング施設の整備により、観光振興、町民のレクリエーションや憩いの空間の形成が図られる

